

英語科 学習指導案

日 時 平成 21 年 11 月 6 日 (金) 5 校時
学 級 北上市立東陵中学校 3 年 B 組
男子 8 名 女子 13 名 計 21 名
場 所 国際ルーム
授業者 講師 田中 香恵

1 単元名 Unit6 20th Century Greats (東京書籍)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、20 世紀の偉人たち、特に環境問題に関する草分け的存在であるレイチェル・カーソンを取り上げ、カーソンの功績や生涯について詳しく読み取るという内容である。また、終わりには得た情報をレポートにまとめるという課題もあり、今までの学習のまとめ的な内容になっている。自分たちでレポートをまとめるという、これまで培ってきた力を試す機会としたい。

言語材料としては、Unit5 で現在分詞の後置修飾・過去分詞の後置修飾の発展として取り扱われている接触節、関係代名詞を学習することで、物事について説明する表現の幅を広げることにつながると考える。また、関係代名詞を使った文章はどうしても長くなり構造も複雑になるが、どのパートにも分かりやすい文になっている。名詞の後置修飾が使われているものが多いので、名詞のまとまりに注目させ理解を深める必要がある。

(3) 指導観

本時の授業ではグループで、ある人物を一人取り上げ、その人物について関係代名詞 who を使って英文を作る。形・意味・用法を理解し、それを用いて表現できるように十分な口頭練習をさせたい。個人で英文に取り組みさせてから、グループでお互いに仲間と交流することで、自分の作った英文との相違点を発見し、推敲させる。まだ一人では英語学習に取り組めない生徒もいるので、助け合いながら英文を完成させるように配慮したい。発表場面では、他者の発表を聞く態度・ルールも大事にするとともに、グループ学習を通して、主体的な取り組みが期待できる活動と考える。

3 単元の目標

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・新出文型を進んで理解し、それを使って自分なりに表現しようとする。
- ・20世紀の偉人について関心を持つ。

【表現の能力】

- ・自分が調べたことの概要をまとめ、英語でレポートを書くことができる。

【理解の能力】

- ・20世紀の偉人たちに関する話を読み、その内容を理解することができる。

【言語や文化についての知識・理解】

- ・接触節や関係代名詞の文の形・意味・用法を理解することができる。

4 単元の指導計画と評価規準（12時間扱い 本時 4 / 12）

時	学習内容	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
2	Starting Out 接触節の形・意見・用法を理解し表現できる。	課題に、前向きに取り組んでいる。	接触節を用いて英文を書くことができる。	接触節を含む基本文の意味が分かる。	接触節の文の形・意味・用法を理解できる。
2 (本時 2/2)	Dialog 関係代名詞 who を用いた文の形・意味・用法を理解できる。		関係代名詞を用いて英文を書くことができる。	対話文の内容を理解できる。	関係代名詞 who の形・意味・用法が分かる。
1	関係代名詞 that/which (主格) を用いた文の形・意味・用法を理解できる。		関係代名詞 (主格) that/which を用いて、簡単な英文を書くことができる。	関係代名詞 (主格) that/which が含まれる英文の意味が分かる。	関係代名詞 (主格) that/which の形・意味・用法が分かる。
1	関係代名詞 that (目的格) を用いた文の形・意味・用法を理解できる。		関係代名詞 (目的格) that を用いた簡単な英文を書くことができる。	関係代名詞 (目的格) that が含まれる英文の意味が分かる。	関係代名詞 (目的格) that の形・意味・用法が分かる。
2	Reading for Communication カーソンの業績と生涯について知る。	本文の内容を読み取るようとしている。		カーソンの業績と生涯についての内容を理解できる。	接触節、関係代名詞の形・意味・用法を理解できる。
2	Reading for Communication 20世紀の偉人について知る。	調べたことを基に、英文でレポートを書こうとしている。	レポートを簡単な英語を使って書くことができる。	ある情報についてまとめたレポートを読み内容を理解できる。	接触節、関係代名詞の形・意味・用法を理解できる。
1	Listening Plus6 レポートの発表を聞き、具体的内容を聞き取り、メモすることができる。			レポートの発表を聞き、具体的内容を聞き取り、メモすることができる。	
1	まとめと練習3 名詞の後置修飾の形を総復習する。				後置修飾の形・意味・用法を理解できる。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・ある情報について、関係代名詞 who を用いて英文を書くことができる。【表現の能力】
- ・友達が書いた説明文を聞いて、意味が分かる。【理解の能力】

(2) 評価の観点と具体的評価規準

	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
表現の能力	関係代名詞や既習事項を用いて、3文以上の英文でまとめることができる。	関係代名詞や既習事項を用いて、英文でまとめることができる。	机間巡視による個別指導励まし。
理解の能力	他のグループの発表を聞き、内容を理解できる。また、メモすることができる。	他のグループの発表を聞き、内容を理解できる。	集中して必要な単語が聞き取れるように支援する。

(3) 展開

段階	学習活動	学習活動	指導上の留意点 ○評価(・支援・教具等・留意事項)
導入 10分	1 あいさつ	・既習の言語材料を用いて生徒同士が簡単な挨拶をする	・コミュニケーション活動への意欲を高め、英語学習の雰囲気を作る ・できるだけ英語で内容をとらえさせる。
	2 課題設定	・Q and A ・教科書復習	
関係代名詞を使って、人を紹介しよう！			
展開 35分	3 新出文型の確認	・簡単な文法確認と口頭練習	・できるだけ英語で内容をとらえさせる ○関係代名詞や既習事項を用いて英文を書くことができたか。 【表現】 ・下位の生徒もできるだけスムーズに取り組めるようにグループで協力しながら活動を進める。
	4 クイズ作り ①個の英文作り ②グループでの英文作り	・グループで発表するクイズ内容を英文にする(個) ・個で書いた英文をグループで確認、補足をする ・グループで英文をまとめる	
	5 発表	・各班の発表 ・他グループのクイズ聞き、自分のシートに答えを書く(個)	○他のグループの発表を聞き取り、内容を理解できたか。 【理解】 ・他グループの発表をメモを取りながら聞く
終末 5分	6 まとめ	・関係代名詞を使った英作文をする ・本時を振り返り、学んだことなど整理し、記述する。	○関係代名詞を使って説明することができたか。 【理解】 ・ワークシートに自己評価をさせる。 ・本時の学び合いについて評価する。
	7 次時の確認	・家庭学習の確認と次時の学習内容を確認	